

ワックスレス型ナタネの圃場における耐虫性の評価

研究のねらい

近年、キャベツなどのワックスレス品種が圃場で耐虫性を示すことが報告されており、育種への利用の可能性が示唆されている。そこで、同じアブラナ科作物であるナタネ（Brassica napus）について、東北農試育成の「はるの輝」などのワックスレス型品種の耐虫性について評価する。

研究の成果

ワックスレス型2品種（はるの輝、Waxless mutant）と従来型3品種（トワダナタネ、キザキノナタネ、農林16号）のナタネを、盛岡市で5月中旬に露地へ播種し、無農薬で栽培した場合、ワックスレス型品種は従来型品種に比べて、コナガ（図1 - 左）、モモアカアブラムシ成虫（図1 - 右）、モンシロチョウの発生量が少ない。

7月上旬にワックスレス型及び従来型品種の被害程度を比較するとワックスレス型品種は従来型品種と比較して被害が軽微である（図2）。

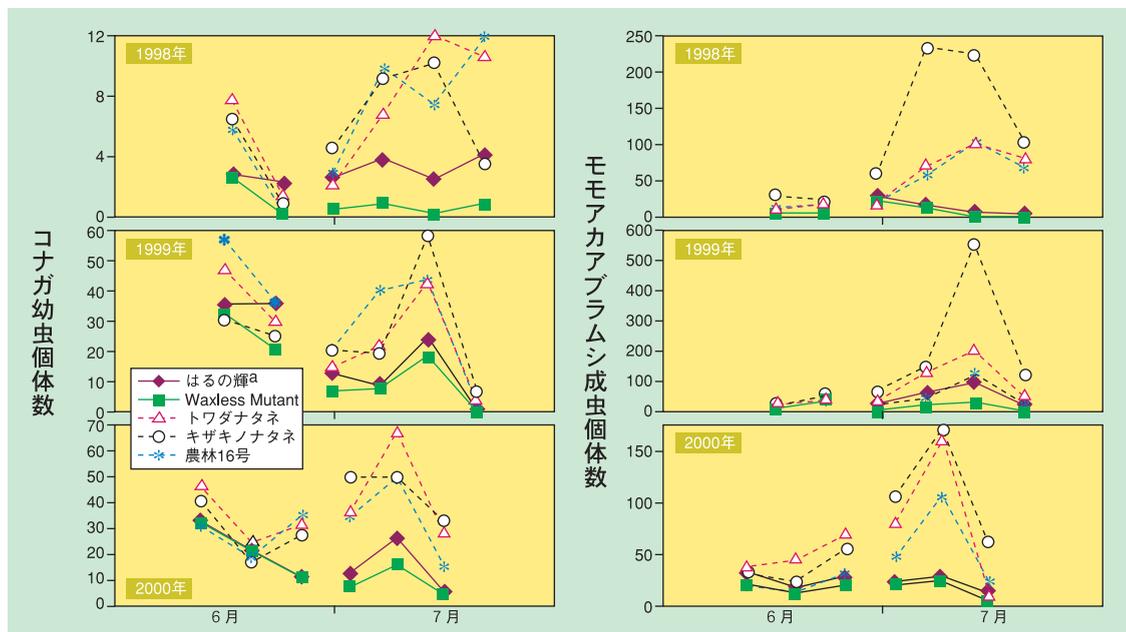


図1 ワックスレス型（、）および従来型（、、*）ナタネ品種におけるコナガ幼（左）及びモモアカアブラムシ成虫（右）の発消長
（6月は5株あたり、7月は10葉あたりの個体数）。a：トワダナタネの突然変異株から育成



はるの輝（ワックスレス型） Waxless mutant（ワックスレス型） トワダナタネ（従来型）

図2 ワックスレス型及び従来型品種の被害程度

成果の利活用

新規耐虫性作物育成のための情報として役立つ。

成果の発表年 平成12年度

（問い合わせ先：地域基盤研究部 害虫生態研究室 019-643-3466）